佳作

未来の自分に伝えたいこと

福島県西会津町立西会津中学校
１年　眞部　碧葉

「未来の私へ。あなたは今、どんな大人になりましたか。」

私の夢は二つあります。一つは、ボートのオリンピック選手になることです。私は今、ボートのスポーツ少年団に入団しています。ボート競技は別名「漕艇」といって、前後に動くシートに座り、足を固定して、体を軸にオールを使い艇を進ませる競技です。ボート競技はオリンピックの種目にもなっています。私は小学１年生から入団して、練習してきました。練習はつらいけど、レース後の達成感はとても気持ちがいいです。また、練習場所が川で、春夏秋冬の季節を感じることができるのも好きなところです。

今年中学生になった私は、7月 23 日、宮城県登米市迫町の長沼ボート場で行われた全日本中学選手権競漕大会に出場してきました。私が出場するのは、シングルスカルという一人乗りの種目です。初めての全国大会、私はとても楽しみにしていました。けれど、大会初日、私は今まで感じたことのない不安と緊張で苦しんでいました。会場ですれ違う選手、全員が自分より強そうに見えました。

「怖い、怖い、沈（転覆）するかも。腹切り（オールが引っかかる）してしまうかも。圧倒的大差で負けるかも。」

予選のスタート前、私はそんなマイナスなイメージしか考えられませんでした。スタートしてすぐに、隣の艇とじわじわと差がついていくのが分かりました。残念ながら結果は 16 位。予選落ちで敗者復活戦に回ることになりました。その後、敗者復活戦は頑張って勝ち上がりましたが、準決勝では、３年生には歯が立たず、負けてしまいました。私は、今回の大会を振り返って、自分の足りないところ、これからの課題がわかりました。大会前、小学校１年から練習してきた私は、自分なりにできると、高いレベルにいると過信していた気がします。そんな私が気付いたことは、上には上がいること。他の選手は毎日練習していること。持久力だけでなく、筋力もきたえていること。今の自分では、まだまだ未熟だということ。技術面だけでなく、レースの組み立てや、体づくりの大切さを、大会を経験して学びました。

私の練習している荻野漕艇場は、阿賀川の新郷ダムの近くにあります。川の流れが緩やかで、周りの木々の緑が水面に映り、きれいな漕艇場です。ボート選手だった父に連れられ、私は幼い頃からこの荻野漕艇場で過ごしてきました。

大好きなボートですが、今、悩んでいることがあります。もともと、限られた練習場所でしか練習できないので、競技人口の少ないボート競技なのですが、近年では、常設部がある高校数が減って、さらに競技人口が減少している状況です。とても残念で、悲しいです。居場所がなくなっているような寂しさや恐怖感もあります。
「どうしたら、この大好きなボートをみんなに知ってもらえるだろう。どうしたら、もっとたくさんの人にやってもらえるだろう。」
中学生になり、高校の進学先を考えるようになって、この考えは強くなっていきました。
　「ボート競技人口増加計画」。私の夢のもう一つは、ボート競技の人口を増やすことです。私の住む会津地域は、この荻野漕艇場という素晴らしい練習場所があります。けれど、たくさんの人に利用してもらわないのはもったいない。
「私にできることはなんだろう。」
そこで考えたのが、まず自分が強くなって、周りの人たちにボートの良さを伝えようと思いました。全国大会で入賞して、新聞などの記事に取り上げてもらうこと、まず自分にできることの一つ、計画の最初の一歩だと思いました。しかし、私は今回の大会で目標を果たせませんでした。今年は無理でしたが、大会で学んだことを生かして、練習に取り組み、来年は必ずリベンジしたいと思います。
「ボート、つらい時もあるけど楽しいよ。景色、きれいだよ。風、気持ちいいよ。心も体もきたえられるよ。頑張れば大きな大会に出られるよ。」
みんなに伝えたい。私一人の力は小さいけれど、少しでも今の状況が変えられるならば。他に考えていることは、ＳＮＳを利用した、もっと情報を発信して気軽に漕艇場に来てもらえるようにすること。ボートをやってみたいと思わせること。私の計画は今、始まったばかりです。
　未来の自分へ。私は今、頑張っています。私の二つの夢がかないますように、これからもっと頑張ります。この文章を見た未来の私が、
「頑張ったね。」
と、自分で自分を褒められるよう、つらくても練習を頑張って、一つ一つ、進んでいこうと思います。